



貨物3基地の将来展望を明らかにせよ



83. 12. 14

No. 1517

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

「59・2」ダイ改阻止「申3号」の基本要要求で交渉

「59・2」ダイ改をめぐる交渉は、十月二四日の労働条件の細部提案に続いて、十二月五日、動労千葉申3号に対する当局回答が行われました。

臨調答申―国鉄本社方針を受け 売りした回答

今日、国鉄当局は国鉄のあり方を根底的に変革する凶暴な攻撃を開始してきています。

「59・2」ダイ改こそ、ヤード輸送体系から拠点間直行輸送体系への大転換と、これに伴うヤード、基地の統廃合により二九八〇〇人を合理化する、動乗勤改善とセットになった攻撃として、国鉄二〇万人台体制―国鉄労働運動解体の突破口をなす攻撃です。

動労千葉はこうした「59・2」ダイ改に反対する立場から、申3号による申し入れを行ってきましたが、十二月五日の交渉において当局は、当事者能力を喪失した回答に終始しました。

すなわち、臨調答申に基づく「貨物輸送体系の全面見直し」のワクから一歩もでないばかりか、具体的に貨物基地をどう確保していくのかについて、何ら答弁することもできなかったのです。

交渉は基本的に対立したまま、一旦打ち切りましたが、申3号の基本要要求に関する当局回答（要旨）は次のとおりです。

1. 運転関係区の将来展望について明らかにされたい。

○（機関車関係）

管内唯一のDL基地（佐倉）、DC基地（木更津）については、輸送形態の変動に伴って車両配置両数に変化はあるものの、将来にわたって変化しないものと想定します。乗務員基地については、輸送形態が変化する場合は、それに伴い大きく変動していくものと思われま

す。（電車関係）

津田沼電車区、幕張電車区について、車両数の変動はあるものの、車両基地としての使命は変わりなく推移するものと思われま

力しています。

京葉線については、基地新設計画はあるものの、輸送形態等不確定であり、具体化されていく時点で明らかにしていきます。

2. 千葉局管内の貨物輸送の将来展望について明らかにされたい。

○ 今後の貨物輸送については、高速、大量、定時、定型の分野において、コンテナ輸送を主軸に拠点間直行輸送体制への転換により、将来とも荷主から選択される輸送機関として自立経営を図ることとします。

3. 運転関係の要員需給展望について明らかにされたい。

○ 要員需給展望については、別途明らかにします。

4. 各区の乗務員運用と検修要員は、組合要求に基づき配置されたい。

○ 提案の内容は、列車キロの変化及び列車体系変化に伴う乗務員運用の見直し、機関車両数減等に伴う検修要員の見直しを実施したものとなっていますが、今後協議を重ねていきたい。

5. '79年度一般採用及び'80年度予科の本科入学を速やかに実施されたい。

○ 動乗本科の開設については、需給上当然見込まれませんが、今後の計画は別途明らかにします。

6. 佐原、佐倉、八日市場、大原駅の貨物扱い廃止計画を中止されたい。

○ 駅配置の基準は、一般取扱い駅で約十万吨、専用線取扱い駅で五万吨が目安です。拠点間直行列車の設定とともに直行輸送体制の基本となるものなので御理解願います。

7. 越中島、小名木川間の側線化及び構内入換の民託計画を中止されたい。

○ 輸送量が大幅に低下しており、部外能力の有効活用を含め業務運営の効率化と輸送コストの低減を図るために御理解願います。

8. 国鉄車両に定員を定めた根拠は何か。

○ 国鉄車両の定員はサーピスを基準に、遠距離用は座席数、中長距離、近距離は座席数に床面積を考慮して定めています。

9. 動労千葉申1号を早急に解決されたい。別途交渉の場で誠意をもって協議されたい。